



株式会社 IDホールディングス
2020年3月期 決算説明資料

代表取締役社長 船越 真樹

東証1部
証券コード

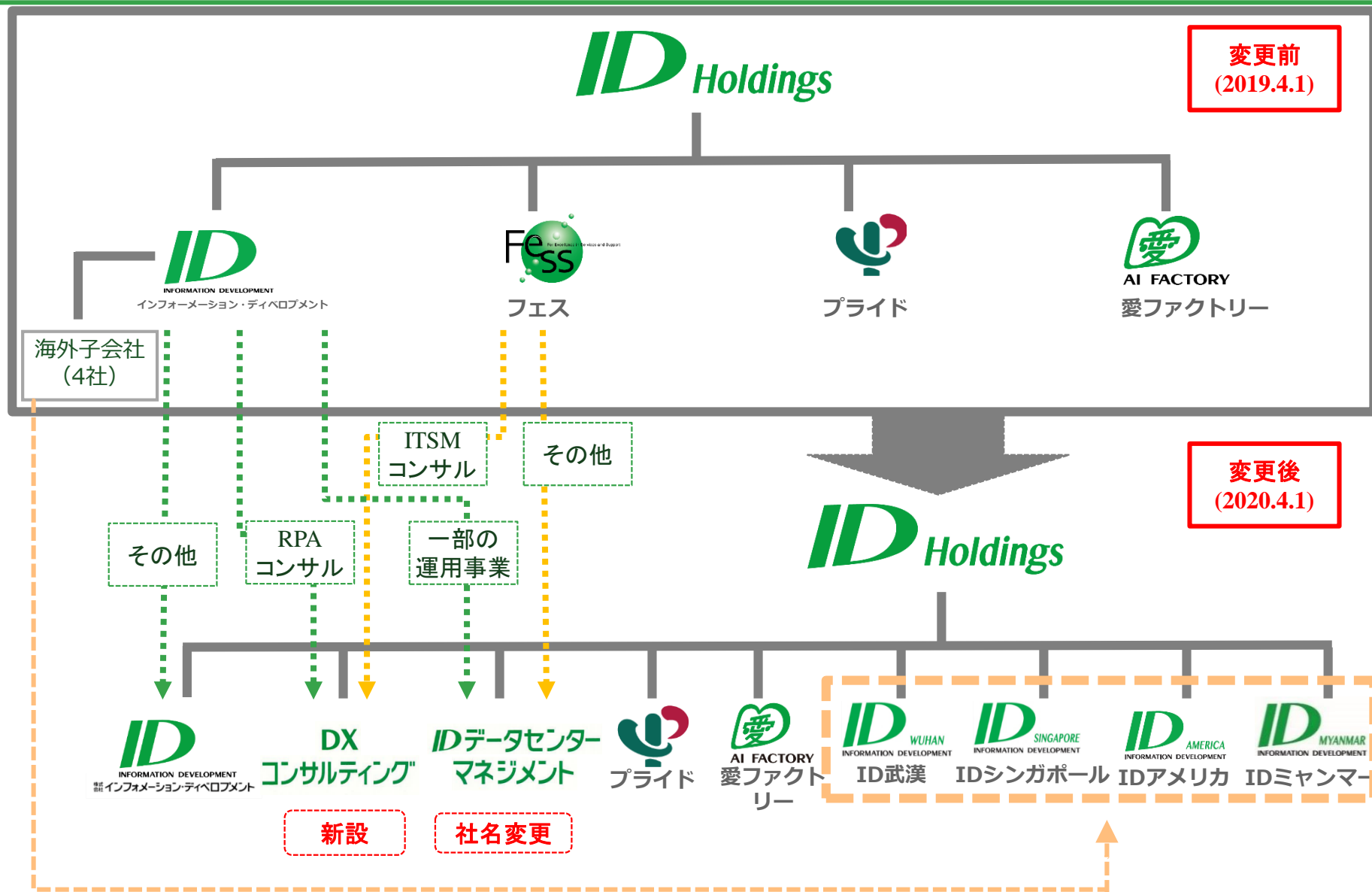
4709

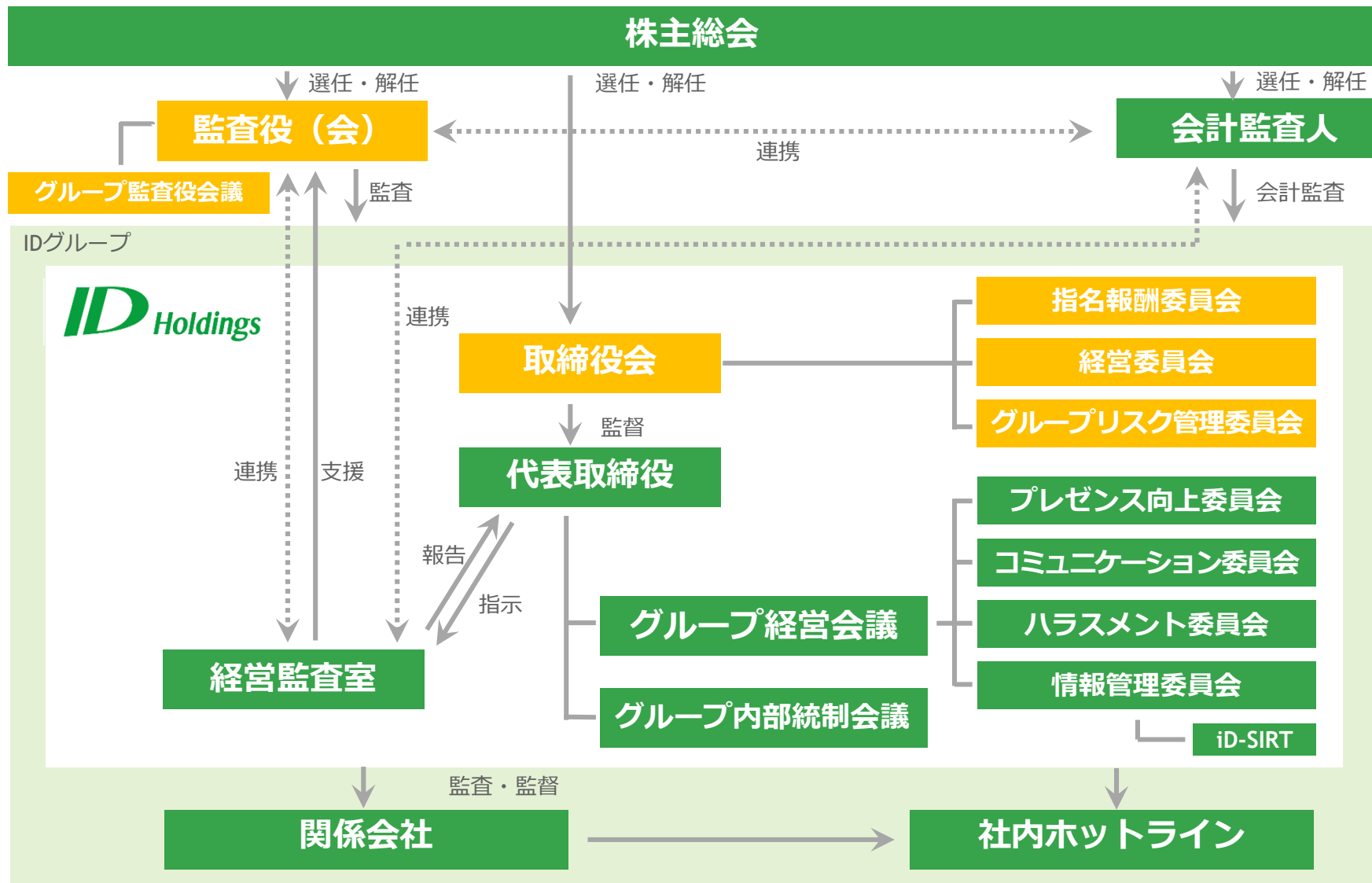
当社ウェブサイトへの
アクセスができます。



2020年5月

Change or Die!





(株) インテグレックス

中村好伸法律事務所

(株) Eパートナー

※取締役：6名（社外3名）
監査役：4名（社外3名）

■ 私たちは、社会インフラを支える情報サービス企業の一員として、**環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）**のさまざまな課題に継続的に取り組んでいます。

Environment 環境

- 電力使用量由来のCO2排出量の削減
- グリーン購入の推進
- 環境ボランティア参加率向上とボランティアの推進

Social 社会

- 社会インフラを支えるITサービスの提供
 - ・ 重要な社会インフラ分野のシステム開発や運用
 - ・ サイバーセキュリティサービスの開発、導入
 - ・ 先端技術の情報収集および研究開発
 - ・ イノベーションを推進するコミュニティ「VENTURE CAFÉ TOKYO」の協賛



- 特例子会社「愛ファクトリー」にて障がい者の雇用を促進
- 柔軟な働き方の実現、健康経営の推進
 - ・ 「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)~ホワイト500~」に認定
 - ・ 日経スマートワーク経営調査にて星3つを獲得
 - ・ 健康優良企業「金の認定」を取得
 - ・ 有給休暇取得の推進(2020年度目標90.0%)



- フィランソロピー
 - ・ 「日の丸セーラーズ」の協賛支援、ほか
 - ・ JMAS地雷除去活動のサポート



Governance ガバナンス

- 国際規格ISO26000の導入および取り組みをHPで開示
- 人権方針の策定および教育の実施
- CSRアンケートの実施と分析

1**決算説明****2****ニューノーマルへの対応**

連結損益状況 (前年同期比)

	2019.3		2020.3		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
(単位：百万円)						
売上高	26,515	-	26,377	-	-138	-0.5%
売上原価	20,917	78.9%	19,967	75.7%	-950	-4.5%
売上総利益	5,597	21.1%	6,409	24.3%	+811	+14.5%
販管費	3,930	14.8%	4,336	16.4%	+406	+10.3%
営業利益	1,667	6.3%	2,073	7.9%	+405	+24.3%
営業利益(のれん償却前)	1,922	7.2%	2,327	8.8%	+405	+21.1%
経常利益	1,724	6.5%	2,111	8.0%	+387	+22.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,028	3.9%	1,297	4.9%	+268	+26.1%

Change or Die!

売上高について

263億77百万円（前年同期比0.5%減）

システム運営管理（119億74百万円、同2.4%減）

- ⊕ 公共および金融関連既存顧客の案件獲得
- ⊖ 一部の金融関連大型プロジェクトの終了

ソフトウェア開発（89億41百万円、同4.4%減）

- ⊕ 公共関連大型案件の一部継続
- ⊕ 運輸および製造関連既存顧客の受注拡大
- ⊖ 前期公共関連大型プロジェクトの終了

システム基盤（24億99百万円、同8.2%増）

- ⊕ 公共関連既存顧客の新規案件の獲得
- ⊕ 金融関連既存顧客の受注拡大

サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育

（20億91百万円、同31.3%増）

- ⊕ サイバーセキュリティサービスの受注拡大、製品の販売増
- ⊕ コンサルティングの売上増

その他（8億69百万円、同11.6%減）

- ⊕ 製品販売における大口の受注
- ⊖ 金融関連の一部事業の終了

収益について

過去最高を更新

・ 営業利益は **7 期連続増益**

20億73百万円（同24.3%増）

・ 経常利益は **4 期連続増益**

21億11百万円（同22.4%増）

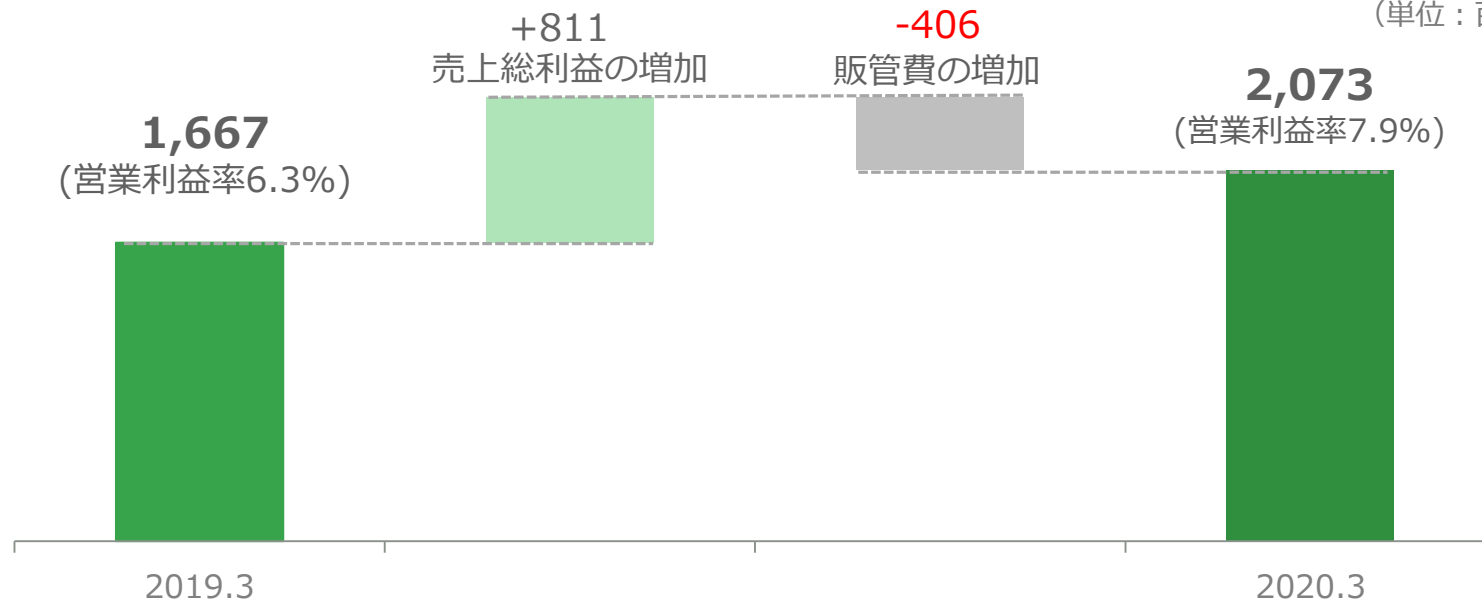
・ 親会社株主に帰属する

当期純利益は **2 期連続増益**

12億97百万円（同26.1%増）

- ⊕ 積極的な営業活動の推進
- ⊕ 高付加価値分野への技術者のシフト
- ⊕ プロジェクト管理体制の強化
- ⊕ ソフトウェア開発での高採算な大型案件の一部継続

(単位：百万円)



◆ 売上総利益の増加 +811

➤ 売上原価の減少 +950

<売上原価の主な増減要因>

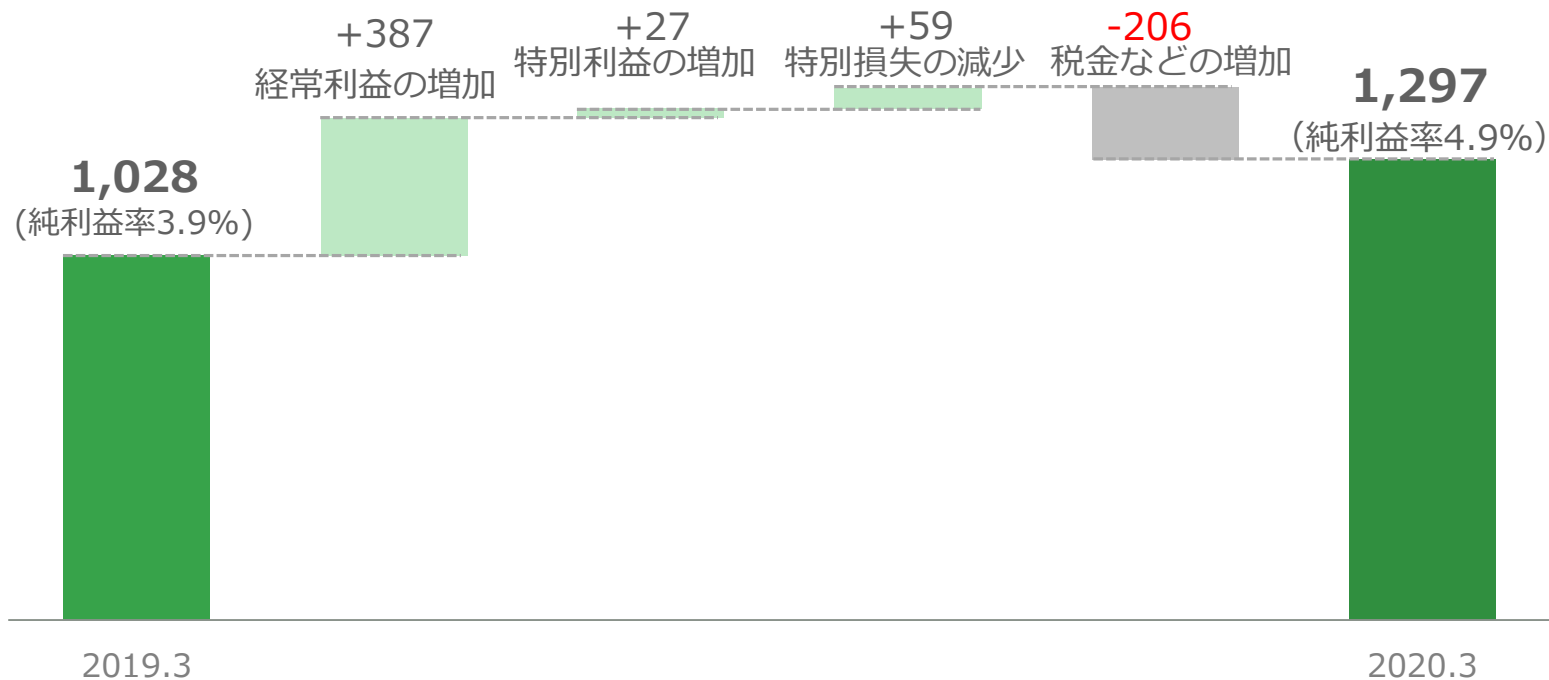
- ・ 労務費の減少 +540
- ・ 外注費の減少 +533
- ・ 製造経費の減少 +91
- ・ 仕入の増加 -241

◆ 販管費の増加 -406

<販管費の主な増減要因>

- 人件費の増加 - 265
- その他販管費の増加 - 140

(単位：百万円)



◆ 特別利益の増加 +27

<特別利益の主な増減要因>

➢ 投資有価証券売却益の増加 +29

◆ 特別損失の減少 +59

<特別損失の主な増減要因>

➢ 前期に計上した事務所移転費用の反動減 +57

1 システム運営管理が 5 割弱

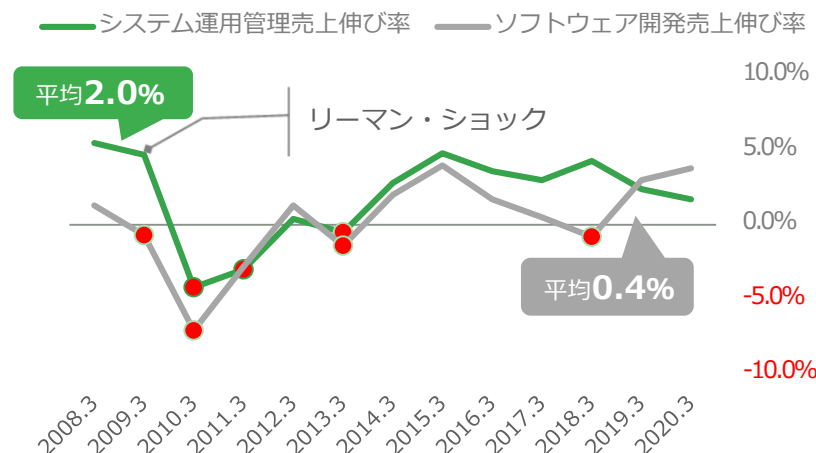
◆ストックビジネスとして業績を下支え

サービス別売上高構成比



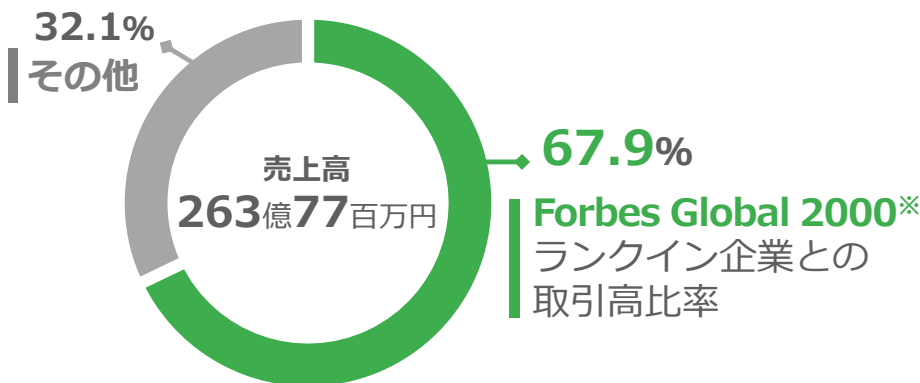
- システム運営管理
- ソフトウェア開発
- システム基盤
- サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育
- その他

【参考】業界の売上伸び率の比較



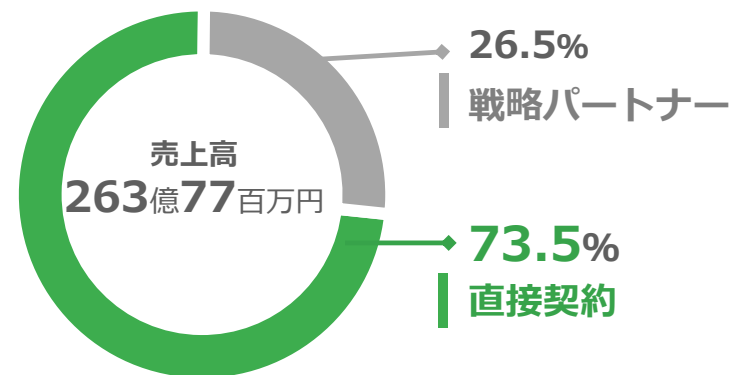
2 大手グローバル企業との取引高が 7 割弱

◆IT投資に積極的な大手企業と安定的な取引



3 直接契約が 7 割強

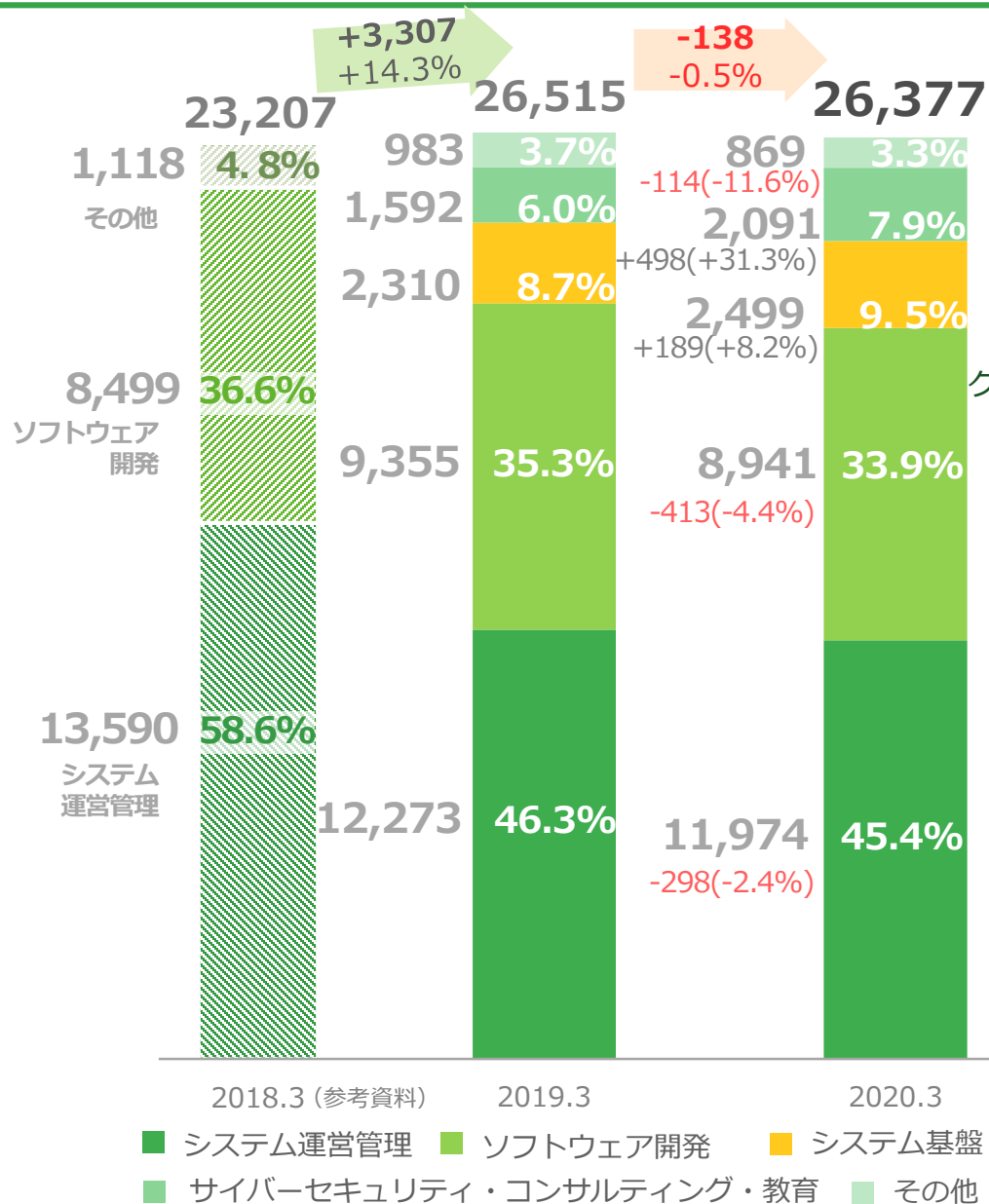
◆顧客ニーズを直接把握し、的確な提案に繋げる



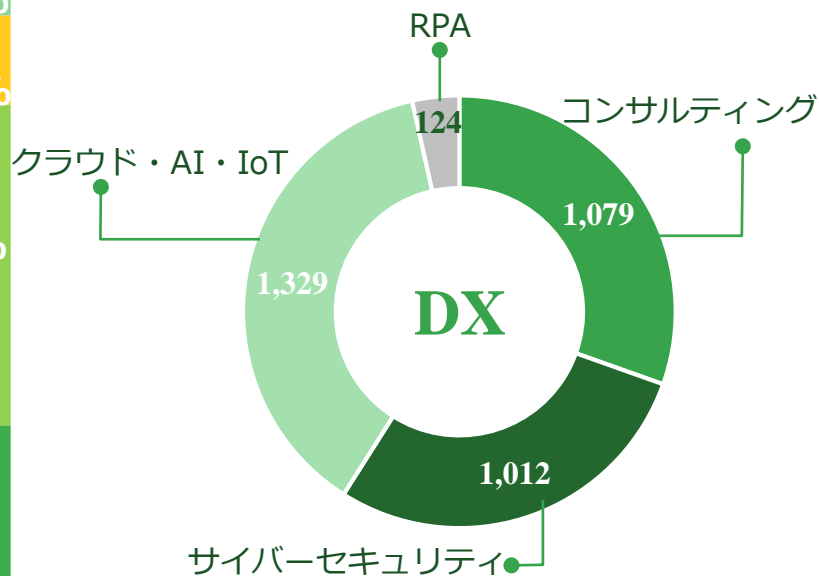
※ フォーブス誌が発表する世界の公開会社ランキングリストです。

IDグループの特徴① (サービス別売上高構成)

単位：百万円



DX関連売上高：3,544百万円
連結売上高の約13.4%



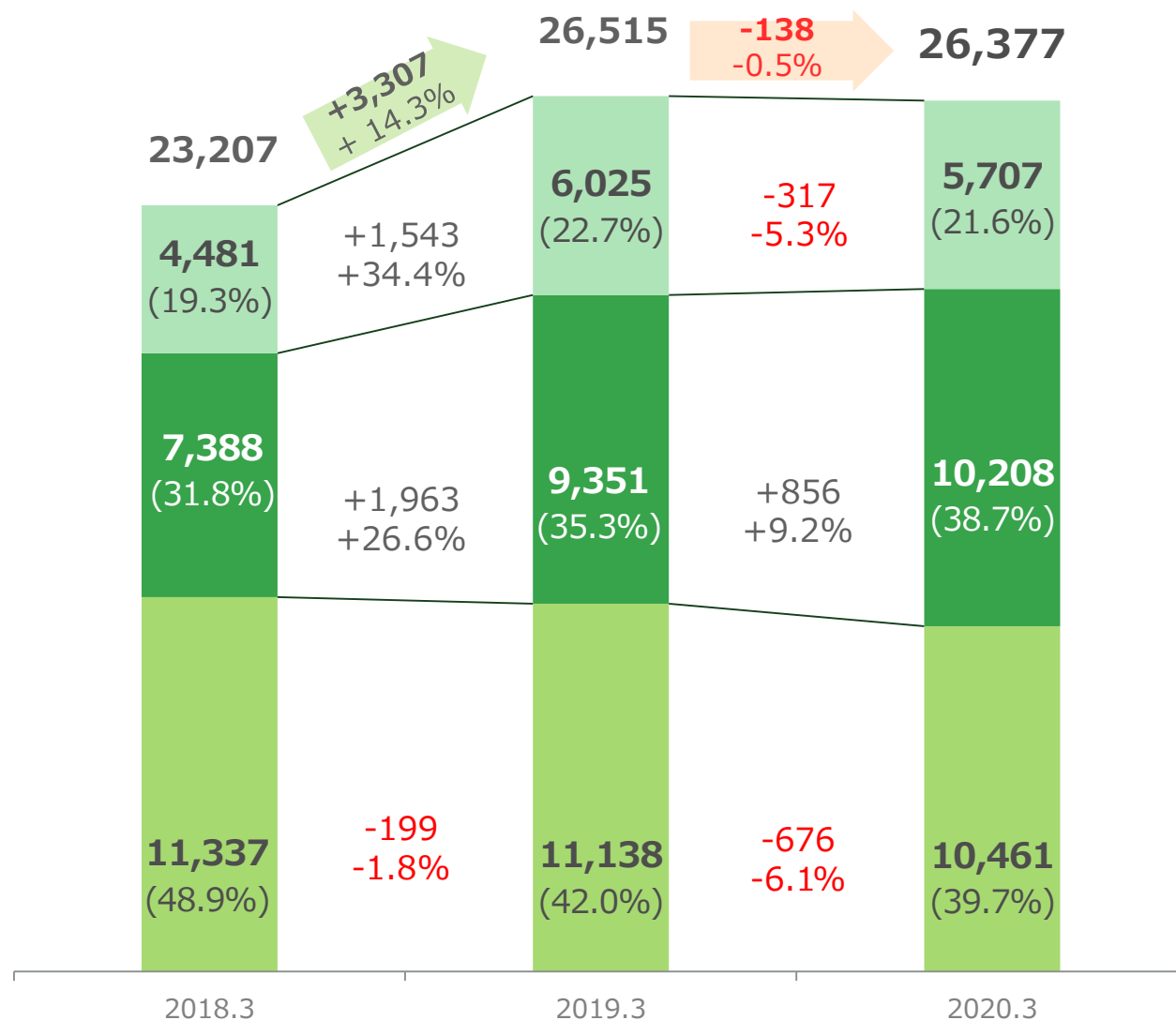
～ DX 関連ビジネス～

サイバーセキュリティ、クラウド、RPA、AI、IoTなどの先端技術を活用した高付加価値業務、ならびにITSM手法等を活用したコンサルティング業務

注：2020年3月期よりシステム運営管理を「システム運営管理」「システム基盤」に、その他を「サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育」「その他」に細分化しています。

Change or Die!

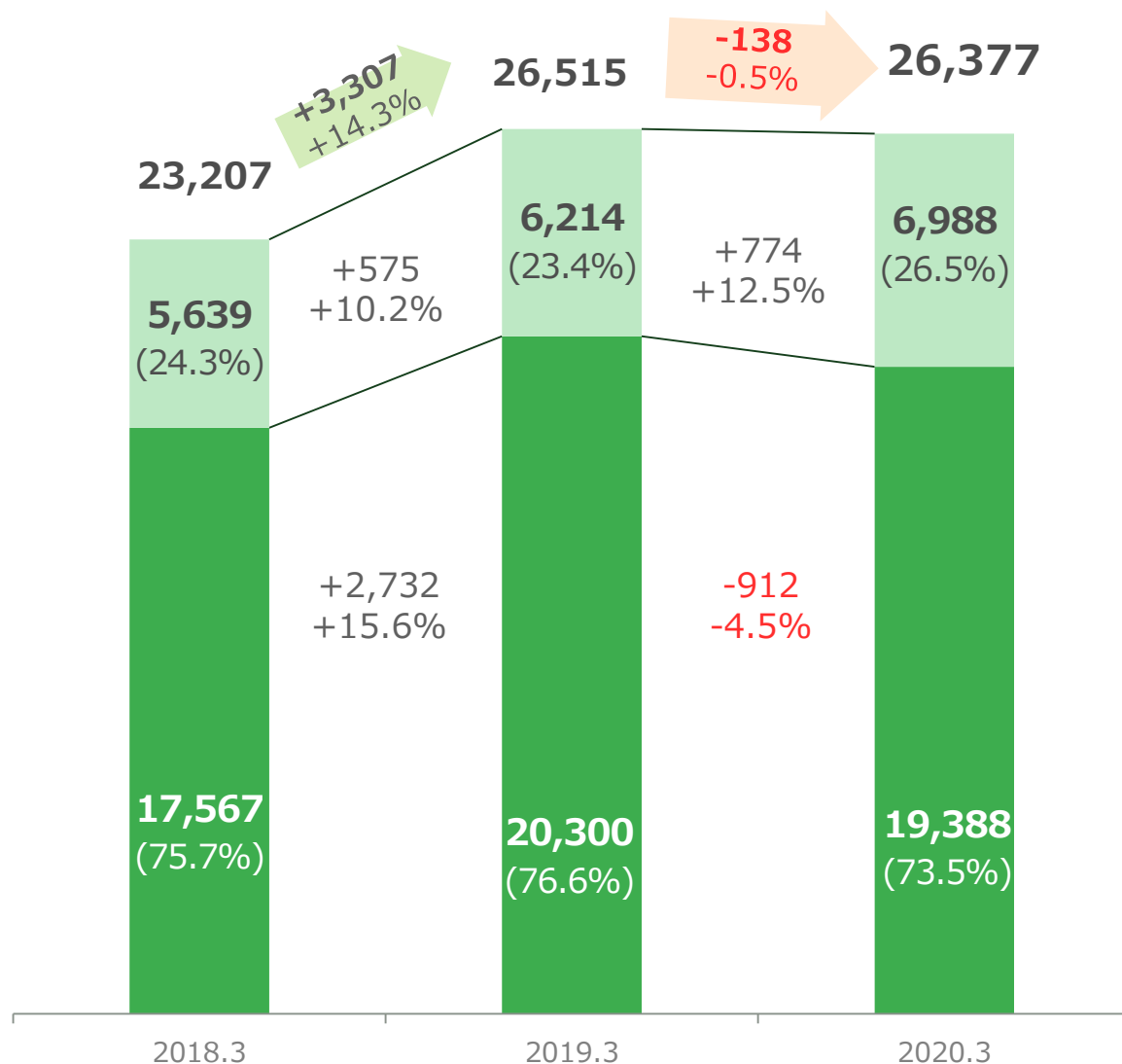
- その他
- 情報・通信・サービス
- 金融機関



単位：百万円
() 内：売上構成比率

Change or Die!

- 戦略パートナー
- 直接契約



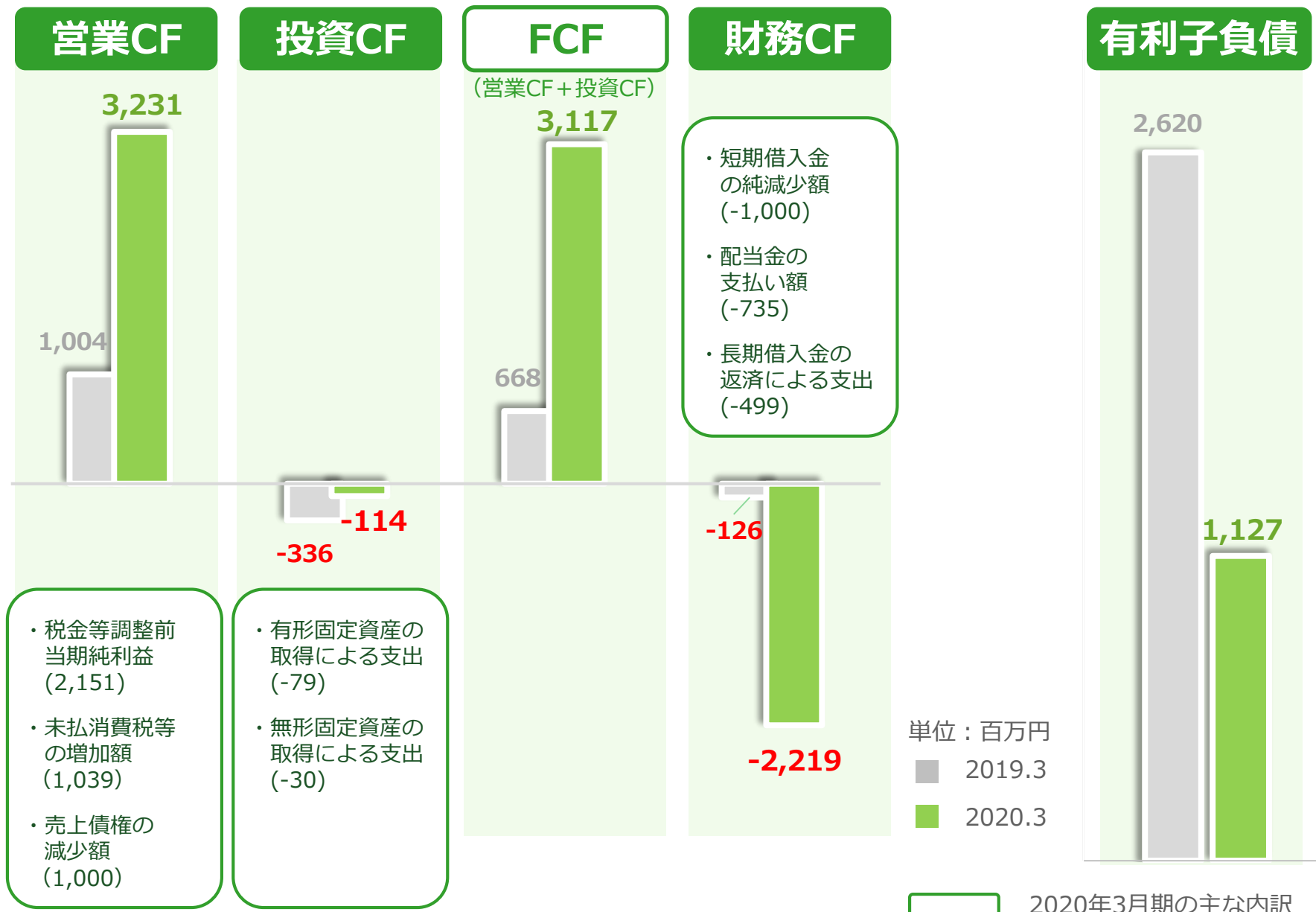
単位：百万円
 () 内：売上構成比率

	2019.3	2020.3		主な増減要因
	(単位：百万円) 実績	実績	増減額	
流動資産	9,298	10,116	+817	
固定資産	5,301	5,133	-168	未収入金の増加(+906) のれん償却による減少(-254)
資産合計	14,600	15,249	+649	
流動負債	5,293	5,857	+563	有利子負債の減少(-1,493)
固定負債	964	661	-302	未払消費税等の増加(+1,038) 未払法人税等の増加(+593)
負債合計	6,258	6,519	+260	繰延税金負債の増加(+157)
純資産合計	8,342	8,730	+388	配当金支払(-741) 親会社株主に帰属する当期純利益(1,297)
負債純資産合計	14,600	15,249	+649	

自己資本比率：**57.0%**

流動比率：**173%**

Change or Die!



1

決算説明

2

ニューノーマルへの対応

ニューノーマル（新たな常態）への適応

（ステークホルダー資本主義）

新時代の到来

- ・新型コロナウイルスの流行が、世界を想像以上に大きく変える。
- ・人と人との距離感が物理的にも内面的にも変わる
- ・哲学（フィロソフィ）と科学（サイエンス）と愛情（tender heart）がますます必要となる。



チャンス

- ・現代社会では大企業も誰も経験していない、未知への体験。
- ・変革するには絶好のchance。



チャレンジ

- ・ニューノーマル（新たな常態）へ適応
- ・従来よりIDグループが志向していたステークホルダー資本主義の始まり



今年度は「Next 50 Episode I 覚醒!(Awakening!)」にこれまでとは全く違う視点で深くチャレンジする年にし、**Waku-Waku**する未来を創造する。

ニューノーマル適応に向けた3つの変革

小粒ではあるが、まじめでいい会社であり続ける！！



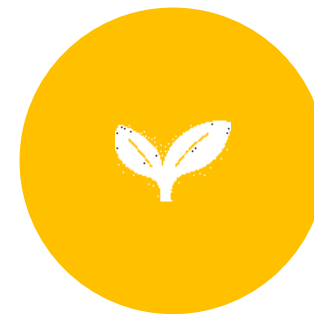
生産性向上に向けた変革

- ・マーケティング(営業も含む)変革
- ・テレワークを主体とした働き方にシフト
- ・社内業務のIT化(自動化も含め)
- ・人財の適所適材



社員処遇の変革

- ・社員の育成(イノベーションの誘発を促す)
- ・報酬を含めた福利厚生への質の向上

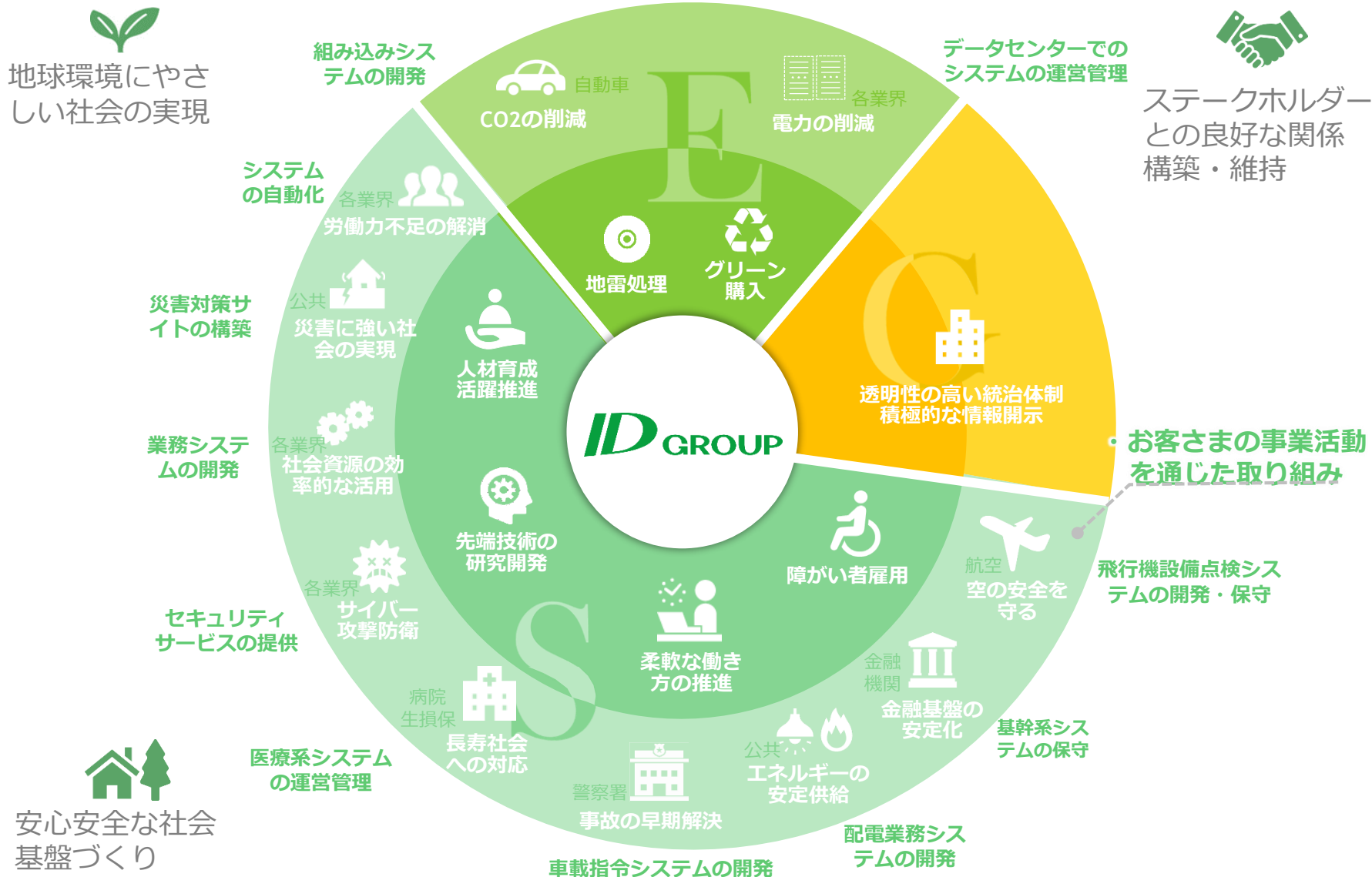


ESGを意識した経営への変革

- ・環境、社会、ガバナンスのさまざまな課題に積極的に取り組む

Waku-Waku する未来創りのため、情報サービスの提供を通じて社会課題の解決に取り組むとともに、**持続的な成長**および**社会価値の創造**を目指す。

Change or Die!



2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

（単位：百万円 %表示は対前期増減率）

売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
24,500	-7.1%	2,000	-3.5%	2,040	-3.4%	1,190	-8.3%	106.74円

この業績予想は、以下の前提で算出したものです。

- ① 新型コロナウイルス感染症は2020年8月ごろに一旦収束するものの、同年12月から2021年4月ごろにかけて再流行する。
- ② 顧客企業の本格的なIT投資再開は2021年3月期第2四半期以降となる。
- ③ 社員の雇用を守る。
- ④ 連結売上高の過半を占める「システム運営管理」および「サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育」分野については、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微である。
- ⑤ 「ソフトウェア開発」および「システム基盤」分野については、現時点で見込まれる顧客企業のIT投資方針の変更や、進行中の案件の延期・中止等の可能性を考慮する。
- ⑥ 経費削減にむけた経営の合理化・効率化施策を実施する。

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。